

学校法人撫子学園 ふじなでしこ こども園

令和6年度自己評価

1. 「令和6年度の目標（内容）」について

1. 労働環境・意識の改革

- ・ 休憩時間・ノンコンタクトタイムの確保と定着
- ・ 危機管理意識を高め、事故防止に努める
- ・ 自分の業務自責任を持ち、お互いが心地よく働ける環境にする

休憩時間・ノンコンタクトタイムの確保と定着

- 休憩時間やノンコンタクトタイムの意識は定着しつつあるが、急な業務変更があると休憩やノンコンタクトタイムを自主的に取る意識が薄れることがある。
- ノンコンタクトタイムが確保できたことで、業務の効率化や職員同士の助け合いが進んだ。
- 職員間で声を掛け合うことで、ノンコンタクトタイムの確保を進めているが、状況によっては確保が難しいことがある。

危機管理意識を高め、事故防止に努める

- 事故防止のため、子どもの動きを注視し、環境整備を行う意識は高まっている。
- 危機管理意識の向上のため、災害対応やアレルギー対応の研修が有効だったと感じる職員が多い。
- 事故につながる可能性のある場面は多く、ヒヤリハットの活用やリスク管理の意識向上が求められている。
- 子どもの登降園時の安全確保や、保護者との情報共有に努めた職員が多い。
- 食物アレルギー対応の意識は高く、誤食防止のための対策や確認を徹底している。

自分の業務自責任を持ち、お互いが心地よく働ける環境にする

- 職員同士の連携やコミュニケーションを意識しながら業務を進めることで、円滑な職場環境が形成されている。
- クラス内の情報共有が重要であると認識されているが、遠慮して伝えにくい場面もあった。
- 時間配分が難しく、年度前半は就業時間内に業務を終わらせる意識があったが、後半になると難しくなった。
- 調理業務では、業務負担の偏りを減らすために職員間の協力が必要と感じる場面があった。
- 担任業務の負担を軽減するため、保育サポートの先生方が協力しながら子どもたちを見守った。
- 環境整備や整理整頓については課題があり、職員全員が意識して取り組む必要がある。
- 働きやすい職場環境を作るために、職員間のコミュニケーションを意識し、助け合いながら業務を行った。
- 職員によって危機管理や業務の進め方の意識に差があり、共通認識を持つための工夫が求められる。
- 子育てと仕事の両立が難しいと感じる職員もおり、業務の効率化や後輩への業務分担が課題となっている。

1. 「令和6年度の目標（内容）」について

2. 教育・保育の質の向上

- ・ 保育実践に生かせる園内研修の実施
- ・ 園児への適切なかかわり(適切な言葉がけ・呼称など)
- ・ 自園調理であることを生かした給食や食育の充実

□ 保育実践に生かせる園内研修の実施

- 園内研修は実践的で保育に直結する内容が多く、設定や手作りおもちゃの活用を見直すきっかけとなった。
- いわて幼児教育センターの幼児教育専門員による訪問支援研修や振り返りが、日々の保育の質向上に役立ち、適切な関わりを意識する機会となった。
- 保育者間のコミュニケーションが不十分だとストレスや保育の荒さにつながるため、円滑な関係構築を心がけた昔と現在の保育の違いを学び、日々の保育の難しさを実感しながらも改善に努めた。
- 園児の呼称については園長からの指導もあり改善が進んでいるが、互いに指摘し合う環境の必要性を感じた。
- 外部講師を招いた研修を実施し、実践的なアドバイスを受け、保育の改善につなげた。
- いわて幼児教育センターの幼児教育専門員による訪問支援で指導案作成や保育の見直しに取り組むことができ、より充実した保育を実現した。

□ 園児への適切なかかわり(適切な言葉がけ・呼称など)

- 不適切な保育の防止に向け、呼称や言葉遣いに注意し、保護者目線で適切な関わりを意識するよう努めた。
- 言葉かけの難しさを実感しつつ、適切な対応を心がけ、保育の中で子どもの気持ちを尊重するよう努めた。
- 園児に対する適切な関わりを意識し、強い口調にならないよう、一呼吸おいて話すことを心がけた。
- 職員間での意見交換を通じて、保育の質向上を図り、不適切保育の防止策を共有した。
- 園児の名前を呼び捨てにしない意識は向上しているが、年齢が上がるにつれ呼び捨てが増える傾向があり、継続的な改善が必要と感じた。

□ 自園調理であることを生かした給食や食育の充実

- 食育活動では、クッキングを通じて子どもが苦手な食材にも挑戦し、情緒面の成長にもつながった。
- 給食では、新メニューの導入時に給食担当がクラスに訪れることで、子どもたちの抵抗感が減り、食べる意欲が向上した。
- 野菜を多く使った献立を取り入れ、調理の工夫をすることで、職員の向上心にもつながった。
- アレルギー対応や不適切保育など重要なテーマの研修を通じて、現場での意識向上が図られた。
- 自分自身が園内研修で離乳食を実際に体験したことで、給食への理解が深まり、給食室の職員との関係も良好になった。
- 午後のおやつ工夫により、子どもたちが視覚的にも楽しめる環境が整えられた。
- 食材の多様化が残菜につながることもあるが、食育の中で伝える工夫をしながら取り組んだ。

1. 「令和6年度の目標（内容）」について

3. 選ばれる園になるための実践強化

- ・ SNS を活用した情報発信
- ・ 子育て支援事業の充実（0.1 歳児の親子サークル新設・園開放・プレスクールの見直し）

SNS 活用の工夫と課題

- インスタグラムの投稿を見やすく編集し、目にとまりやすい発信を心がけているが、作業時間の効率化が今後の課題である。クラスごとの投稿頻度にバラつきがあり、業務負担を考慮しながら均等な発信を目指すべきと感じた。
- 動画作成や編集に時間がかかり、顔を隠す作業が難航するなどの課題がある。
- 給食は SNS を通じて食の魅力を伝えることで、保護者の共感を得る努力ができています。
- SNS を見て園に好感を持ち、見学に来る保護者が増えていると感じる場面が多かった。映像(動画)や雰囲気の良い発信が有効だったと思っている。
- 行事や業務が忙しい時期には SNS の更新が滞りがちになり、安定した発信が課題だと感じる。
- 園児募集の情報発信の内容がマンネリ化しやすく十分でないため、意識的に発信の内容を検討していく必要がある。
- 職員の間では SNS 活用が定着してきており、より効果的な情報発信を学ぶ機会を増やすことが望まれる。
- SNS 発信の内容を統一するために、職員間で話し合い、共通の視点を持つことが必要ではないか。
- SNS 発信によって保護者が園を身近に感じ、「あの園いいよ」という口コミが広がることようにしていきたい。

プレスクール等子育て支援事業

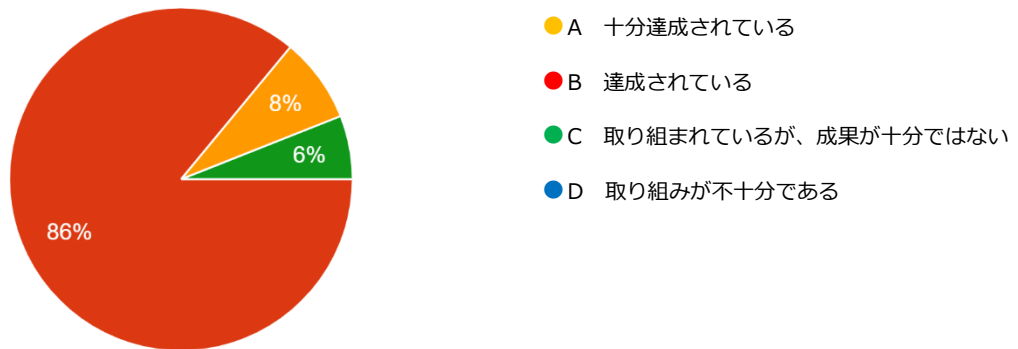
- 離乳食の試食会が 2 回開催されたことが好評であった。滝沢市の離乳食教室は 1 回のみなので、いつでも参加できるような継続開催が求められているのではないかと。
- 園開放やプレスクールは利用が減少傾向にあり、個人の SNS での紹介や友人への勧めなど、新たな情報発信方法を模索している。
- SNS だけでなく、市役所や地域の掲示板にも情報を掲載し、より多くの人に知ってもらおう工夫が必要だと感じた。
- 投稿内容は、園の良さが正しく伝わるようにしていきたい。
- 他園との差別化を図るため、目玉となる行事や特色を見つけ、積極的に発信していきたい。
- 0.1 歳児向けのサークルが親同士の交流や育児相談の場となり、入園につながる取り組みとなっている。
- 今年度、0.1 歳児の親子スクールを作り、年齢別開催が好評であることが利用保護者の声として聞かれた。さらに利用しやすい仕組みを検討することで利用者が増えていくのではないかと。
- プレスクールでは、季節感のある写真撮影や制作があり、保護者同士の交流の場としても機能している。

2, 園の取り組みについての評価（自己反省も踏まえて）

回答…54名

1. 教育・保育理念 建学の精神／教育・保育方針／諸規則の理解と実践

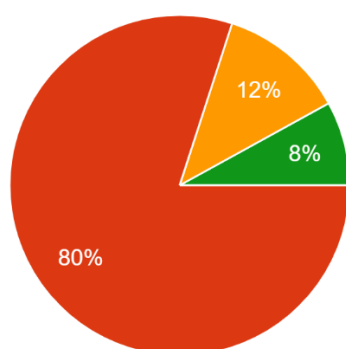
54件の回答



- 教育理念はさらに理解を深めながら保育にも積極的に関わっていききたい。
- 建学の精神を再確認し、昔も今も変わらず目の前の子どもたちに愛情をもって接することができた。
- 今以上に教育・保育理念を身近に感じられるよう、週の振り返りや研修の中でもどんどん意識していきたい。
- 一人一人、教育・保育理念を意識しながら保育ができたと思う。
- 園児への援助の方法に悩んだ時には、園の方針や理念を意識して関わったり、成長過程でどのような対応が必要かを確認したりしながら、園児の心に寄り添った保育を行うことを大切にすることを心がけた。
- 研修の際に再度、教育・保育理念について触れることで、意識しながら保育を行うことができた。
- 今後も意識していきながら業務に励みたいと思う。
- 新年度には、教育保育理念について確認し新たな気持ちで1年を始めたい。
- 年度初めに全員で研修を受けることで、再確認を行うことができています。
- 年度初めの研修で教育・保育理念を振り返り共通理解ができた。規則、規律を守って日々業務に取り組んだ。
- 園内研修で教育過程や、指導計画をなんども見直したり、意識してクラスの計画に反映させたことで、より繋がりを持った保育を行うことができるようになってきている。
- 毎年、最初の研修で教育保育理念を改めて確認することで、自分で意識して一年の保育に取り組めることができる。
- 春の研修のみで、普段振り返って、読んだり考えたりすることができていないため、来年度もっと努力していきたい。
- 教育・保育理念を大切にしたい保育を展開していきたいと思っているが、現状に満足せず、向上心をもっていきたい。

2-1. 子どもの発達・援助 保育の在り方／児童への対応

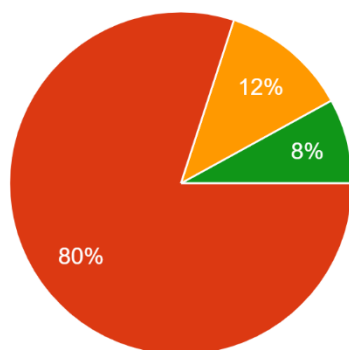
54 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分ではない
- D 取り組みが不十分である

2-2. 子どもの発達・援助 危機管理／保健衛生／安全教育に対する取り組み

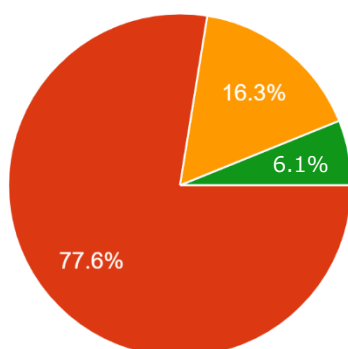
54 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分ではない
- D 取り組みが不十分である

2-3. 子どもの発達・援助 様々な生活リズムや年齢の児童への配慮

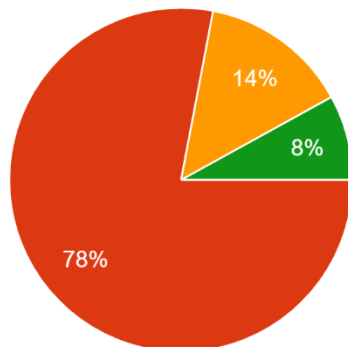
54 件の回答



- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分ではない
- D 取り組みが不十分である

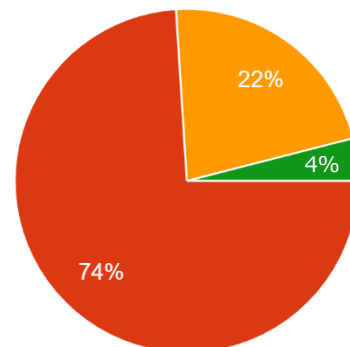
2-4. 子どもの発達・援助 行事への取り組み

54件の回答



2-5. 子どもの発達・援助 食育への取り組み

54件の回答



□園児への対応

- 子ども一人一人に寄り添った保育では発達や特性に合わせた柔軟な対応を心がけた。
- 個性を尊重し、無理なく成長を促す保育を意識した。
- 配慮が必要な子どもへの対応強化は、サポート職員の必要性を感じ、職員配置の検討が必須である。担任との情報共有を行い、午後の保育まで一貫した対応を行った。
- 毎週金曜日に職員間で保育の振り返りを行ったことが、保育の質向上につながっている。
- 職員間の協力と情報共有として、研修や話し合いを通じて保育の連携を強化した。

□保健衛生・危機管理に関する取り組み

- 事故やヒヤリハットへの迅速な対応として、事故発生時にクッション材を使用するなど、即座に対応を行うなど職員間で声をかけ合いながら、安全管理に努めた。
- 子どもの安全を考えた環境整備として、子どもの動線や遊び環境を定期的に見直し、安全面に配慮した。
- 配慮が必要な子どもにも適切な支援を行えるよう努め、安全な保育をつねに心がけていた。
- 感染症対策の徹底は、流行時期に限らず、保育室の掃除や消毒をし、衛生管理を強化した。
- 午前の教育時間のみではなく、午後の保育まで一貫した対応ができるよう、職員間で情報共有を行った。
- 不適切保育に関する研修では全国の事例から、子どもにとって適切な援助を行うことについて協議した。

□様々な年齢の児童への配慮に関すること

- 発達や特性に応じた対応は、子どもの発達や特徴に合わせた柔軟な対応を行い、園全体で最適な支援を考えた。
- 個性や特性を受け止め、集団に無理に合わせるのではなく成長につなげる保育を目指した。
- 配慮が必要な園児は年々増加する中、サポート職員の必要性が高まっていると感じた。各クラスで担任とサポート職員が連携し、一人一人に丁寧な関わりができるよう努めた。
- 給食時に眠くなってしまいう子どもへの対応など、子どもたちの生活リズムに配慮した適宜対応をしてきた。

□行事への取り組みに関すること

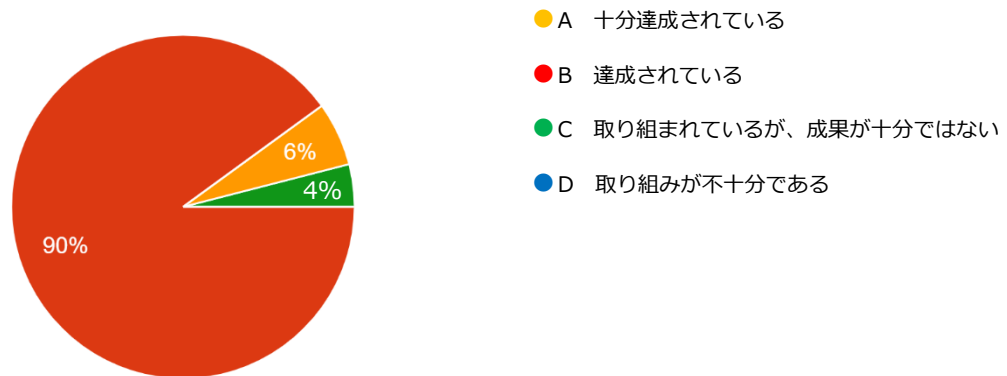
- 行事の在り方の見直しと工夫が必要だと感じている。行事ありきの活動ではなく、子どもの姿や遊びの延長として行事を位置付ける取り組みを考えていきたい。
- 年々、行事の求められるレベルが上がっていると感じるため、無理なく楽しめる方法を模索していく。
- 子どもたちの成長と興味を引き出す手法として行事の実施を考えていく。今年度は行事を通して、子どもたちの探究心や向上心が芽生え、充実した経験を積むことができたと感じる場面が多くあったため「やってみたい」という気持ちを尊重し、楽しみながら参加できる行事を目指した。

□食育に関する取り組み

- 栄養士が積極的に食育活動に関わってくれたことにより、今年度の食育活動はより充実した。
- クラスに給食室の先生が部屋に来ることで、子どもたちが食に興味を示す姿が見られた。
- 離乳食提供が中期食（2回食）からに変更になったが、みんなで協力しながら進め、スムーズに導入することができた。
- 子どもたちの興味・関心が引き出せるよう季節の行事や食育活動を通じて、学びにつなげた。
- 環境を生かしながら、食に関する体験を豊かにする取り組みを行った。

3. 保護者に対する支援 保護者・地域への対応

54 件の回答



□保護者支援の必要性の増加

- 支援が必要な家庭が増えていると感じている。職員間で協議・情報共有を行い、共通理解を持って対応することが重要だと思う。
- 家庭環境を考慮した支援に加え、関係機関との連携が必要なケースも増えている。

□送迎時のコミュニケーションの工夫

- 送迎時に短時間でも保護者と積極的に会話し、子どもの成長や園での様子を共有するようにしたが、一方で送迎時の対応で保育が手薄にならないよう配慮することも必要である。
- 明るく笑顔で挨拶をし、話しかけやすい雰囲気を作ることで、保護者との信頼関係を築くように心掛けた。
- 園外活動などでは地域の方々にも挨拶をすることで、子どもたちとともに地域で子どもを育てていく関係を築いていきたい。
- 子どもの成長をともに喜びながら、園生活や家庭での様子を話し合う機会を大切にする。

□保護者への情報発信の工夫

- 園での様子をドキュメンテーション掲示やInstagramを活用して発信してきたのは有効だったと感じる。
- おたより帳の活用についても検討を進めたい。就労などで時間がとりにくい保護者や、対面でのコミュニケーションが不得手な保護者にも子どもの成長や悩みを伝える工夫をしていく必要がある。

□申込制度の柔軟性と簡素化

- 注文給食や土曜保育など、申し込みが必要なものについては、必要に応じて個別に声をかけるなど柔軟に対応してきた。
- 預かり保育等の申込用紙の簡素化を検討し、保護者が利用しやすい環境を整える。

□離乳食・給食に関する支援

子どもに合った食べやすい離乳食や給食を提供し、保護者の支援につなげる。

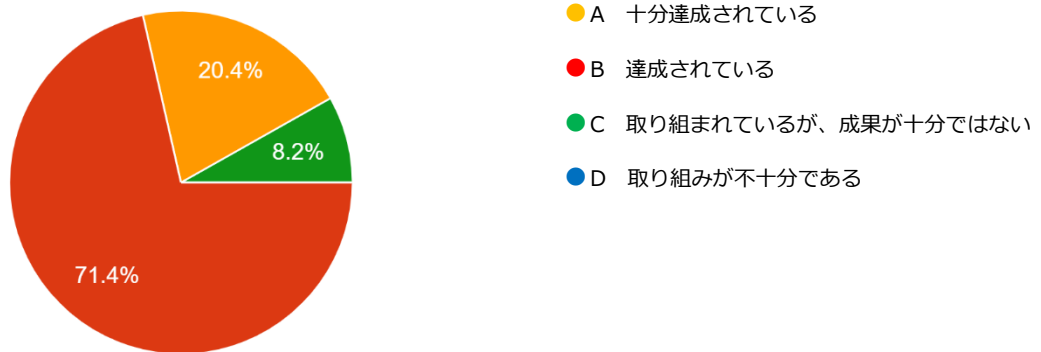
- 離乳食は今年度から中期食からの導入となった。保護者との相談の機会も増え、引き続き家庭との情報交換を充実させていく必要性を感じている。

□伝え方の工夫と信頼関係の構築

- 保護者によって言葉の受け取り方が異なるため、伝え方を工夫し、誰が対応しても共通できるように今後の課題として模索する。

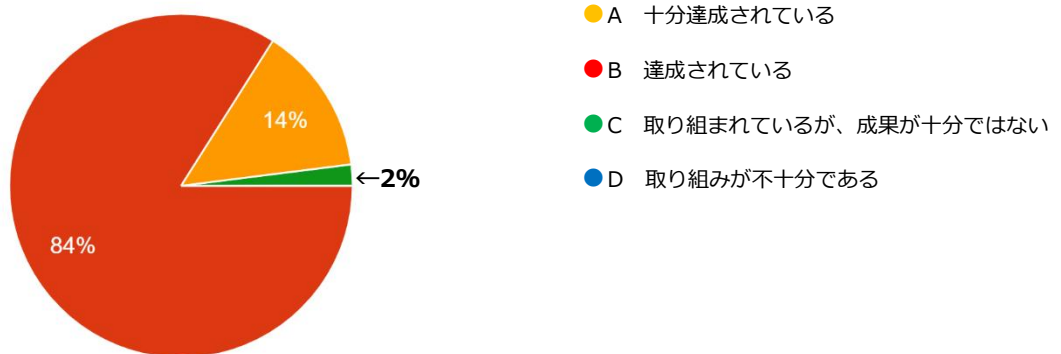
4-1. 保育を支える組織的基盤 研修への取り組み

53件の回答



4-2. 保育を支える組織的基盤 施設整備・管理／職員処遇／出納管理

53件の回答



・研修の充実と実践への活用

- 職員配置の調整により、外部研修への参加がしやすくなったため、次年度も実践的で意見交換ができる研修を増やし、より良い保育につなげたい。
- 研修で学んだことを職員間で共有し、保育の質向上に活かす時間を増やしたい。

・職員間の連携と情報共有の強化

- 不適切保育の防止策を共有し、適切な保育の在り方を意識できるようになった。
- 学年やクラスを超えて情報を共有し、園全体で統一した保育を目指すべきである

・施設・環境整備の改善

- 物品の整理整頓や管理意識を高め、職員同士で声を掛け合いながら改善を図った。
- 園庭での遊びが充実し、より良い保育環境が整った。

・業務の効率化と働きやすさの向上

- パソコンの増設やノンコンタクトタイムの導入により、事務作業の効率が向上しているのを実感している。
- 持ち帰り業務が減り、保育に集中できる環境が整った。

・保育の質の向上とキャリアアップ

- 外部講師からの助言や県外研修への参加を通じて、新たな視点を得られる機会が多くあった。
- 子ども中心の保育を意識し、保育の質向上に取り組む姿勢が強まった。

3, 令和7年度の目標

保護者・地域から信頼され、園児が安心して楽しく過ごせる魅力的な園づくりを推進し、

園児獲得につなげる。

具体策	内容
1.保護者との コミュニケーション強化	<ul style="list-style-type: none">○ クラスごとの情報共有を徹底し、透明性を向上させる（SNS 活用、定期報告の強化）。○ 保護者参加型のイベントを見直し、負担を減らしながらも園の魅力を伝えられる形に改善。○ インスタグラムの活用強化(リール動画で1日の様子を発信、給食の紹介など)
2.園の魅力向上	<ul style="list-style-type: none">○ 小グループ保育の充実を図り、子ども一人ひとりに合った丁寧な保育を提供。○ 園庭・遊び環境の整備（身体を使った遊びの充実）。○ 自園らしい給食の提供と、SNS での発信。
3.職員の働きやすさ向上	<ul style="list-style-type: none">○ 休憩時間・ノンコンタクトタイムの確保を継続し、保育の質向上を支援。○ 園内・外部研修の充実（発達障害、不適切保育防止、最新の保育手法など）。○ 相談しやすい職場環境・心理的安全性の確保。
4.地域との関係強化	<ul style="list-style-type: none">○ 園開放イベントの充実（食育やクッキング体験など長期的に楽しめる企画）。○ 公開保育の実施による園の魅力発信。○ デイサービス事業との連携による世代間交流の場を提供。
5.園の経営戦略	<ul style="list-style-type: none">○ SNS やホームページの活用で園の特色をアピールし、園児募集を強化。○ 園内の業務効率化（書類の簡素化、電子化の推進）。○ 時代に合わせた運営方針の検討（新規事業の準備、職員体制の整備）。